

環境科学年報 22 号の発刊にあたって

信州大学環境科学研究会は 22 年前に約 20 名の同志が集結し環境問題について横のつながりを持った。以後、毎年各自の研究の中のこのテーマをまとめ信州大学の中に、また信州の地域に語り繋いできた。細々ながらも、灯火を消さずに来ました。このたび 22 号を出版する運びとなりました。

日頃の研究の成果の積み重ねが大事で、「継続は力なり」の成果を示す場です。科学することはその方法と体系を問い直すことです。

この報告書では、学長裁量経費の「大学院工学研究科博士課程地球環境システム科学専攻の教育充実経費」の一部を使用し、「北アルプスの自然災害および環境保全、とりわけ絶滅危惧生物の生態と保全に関する研究」――藤山静雄氏（生物系代表）――というテーマで調査を行いその結果の一部を掲載してある。他に山本、相馬、菅原、佐藤、吉田、藤山らの 7 篇の報告が掲載されている。